

もずくの基金でサンゴ礁を守る 消費が産地の海に貢献



自：自然共生
資：資源循環
低：低炭素

キーワード

地方創生、官民連携、
水辺の保全・再生、食、ブランド化

フィールド

九州・沖縄
(沖縄県)

海



実施体制

恩納村漁業協同組合、恩納村、※関井ゲタ竹内
※パルシステム連合会（パルシステム）、
生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合（コープCSネット）、
生活協同組合連合会東海コープ事業連合（東海コープ）



アクションの目的

地元産品の購入・消費による「海を育む」活動の推進

アクションの背景

エメラルドグリーン美しい海に広がるサンゴ礁は、地球温暖化や天敵であるオニヒトデの大発生等により劣化が進んでいる。恩納村漁業協同組合では1970年の漁協設立当初からオニヒトデ駆除等に取り組んできた。1998年からはさらに「海を守る」から「海を育む」目的で、サンゴ養殖の試験を開始。2003年からサンゴの植付けも開始。現在、取組の輪が広がり、恩納村、水産食品加工業者の（株）井ゲタ竹内、コープの連携による「サンゴの森づくり」を進めている。

アクションの内容

【もずく製品の消費によるサンゴ再生推進】

消費者であるコープ組合員が、対象となるもずく製品を購入する際、売上げの一部が基金に積み立てられ、生産者である恩納村漁業協同組合が行うサンゴ再生に役立てる仕組みが構築されている。サンゴの苗の植付け方法は、漁協が試行錯誤の上、独自に開発した「ひび建て方式（海底から杭を建て、その上で植え付けたサンゴを育てる方式）」による。

これまでに2万本を養殖し植付けを行っている。2010年に植付けをしたサンゴが産卵したことが確認されている。

開発努力の結果開発された新品種「恩納もずく」が2011年7月4日に、もずくやワカメ等の褐藻類として国内で初めて農林水産省にて品種登録された（特徴：ヌルヌル、シャキシャキした食感、独特の食べ応えとのど越し）。恩納村でしか栽培されていないことがアピールポイントとされている。

アクションのポイント

◎生産者－加工業者－販売者－消費者のつながりが、恩納村コープサンゴの森連絡会というかたちでうまくまとめている。
◎都市等の消費者が産地である海の状況に関心を寄せ、また、海の自然再生に参加したいというニーズに、製品の購入による貢献、産地交流会での実際のサンゴの苗作り等のかたちによりの確に伝える企画を検討し実施している。

アクションの効果と今後の展開

○取組を通じて生産者の海を守り育てる主体としての自覚が高まり、海の総合管理に積極的に取り組むようになってきている。
○漁協の取組が、地域の商工会や農業者への意識改革につながり、協働して地域活性化に取り組むきっかけとなっている。

恩納村コープサンゴの森連絡協議会 恩納村漁業協同組合 〒 904 - 0414 沖縄県国頭郡恩納村字前兼久59番地

○ TEL / 098-964-2797 ○ FAX / 098-964-3100 ○ E-Mail / mozuku@pony.ocn.ne.jp

○ web / <http://sangonomori.jp/>